

2024年1月31日（水）

老球の細道771号

## 1月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

元旦から能登半島地震、羽田空港事故で日本中が騒然として2024年を迎えたところに、私事ではあるが父方の叔母が死去することも加わった。心機一転の新年どころか、世界は相変わらず紛争が続き、日本においてはキックアウトならずキックバックが増々疑惑を深めて来た。今年も激動の年となる前触れだろうか。いざというときに自分を見失わないために今年も心身の健康に留意し、学び続け、世の中の変化に対応しながら、バスケットボールで人生を楽しみたい。

### 1・テレビ

◆「利休の敗北から学ぶ教訓。①相手の内懐に踏み込み過ぎない②自らの力を過信すべからず③表舞台から降りるタイミングを知るべし」〈BS11『偉人の敗北からの教訓・千利休』〉：一碗の茶を喫することで人生の至福を味わう工夫を重ねた千利休。秀吉の逆鱗に触れて自刃。どこで道を間違えたか。何事も偶然の勝利はあるが、敗北は必然であることを肝に銘ず。

◆「“良かった”と言ってもらえるのがうれしいんです。だから歌うんです」〈NHK ニュース〉：突然亡くなった歌手八代亜紀の言葉。高倉健主演の映画「駅」で流れる「舟歌 ♪」は至極の名曲である。この通信も感想をよこしてくれる人がいるから続けられる。

### 2・読書から

◆「生きることの一大事は、日々すがすがしい朝を迎えることか」〈『利休にたずねよ』山本兼一著：PHP〉：若い頃は二日酔いや練習疲れでどんよりとした朝を迎えることが多かった。今はやるべきことをたくさん抱えながら目覚める朝に感謝。今日も生きていられる。

◆「子曰はく、人の己を知らざるをうれえず、己の能なきをうれえよ」〈『論語』貝塚茂樹訳〉：中公文庫〉：初めて「論語」を読破した。人としての在り方、生き方が随所に散りばめられている。孔子でさえ人から見向きもされない時代があった。私などはあたりまえである。

### 3・新聞等から

◆「一番を目指さないと、二番にも三番にもなれない。やっぱり一番を目指すからこそ、見える景色があるからです」〈朝日：中村淳子：全日本柔道連盟強化副委員長〉：目標は ベスト4とかベスト8とか言うが、「ベスト」とは「最高」とか「一番」という意味なのでは。現在の実力が二流、三流であっても、目指すは超一流。凡であることに怒り、愚直に励め。

◆「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道（イチロー）」「目標を達成する瞬間も大好きですが、そこを目指して毎日工夫しながら練習することが好きです（大谷翔平・藤井聡太）」〈朝日：文化：天才観測〉：その道の天才たちの言葉。上には上がいることを痛感した時、打ちのめされあきらめるか、ワクワクして挑戦するか。

◆「わかっているつもりでもわかっていないことがある、ということを知っていなければいけない」〈朝日：教育〉：基本は簡単なことであるが、繰り返すたびに新たな発見がある。